

第28回全日本実業柔道個人選手権大会・報告書

第28回全日本実業柔道個人選手権大会は、8月29～30の両日、兵庫県尼崎市記念公園総合体育館で男子8階級（7体重別と22歳未満の部）計490人と女子7階級、計88人の合わせて578人エントリーのもとに熱戦を展開した。男女とも国際ルールに則り、新体重制改定後、初めての実施となった。



開会式で挨拶する齋藤 裕会長

初日は男女計8種目、321試合が行われた。男子66kg級（旧65kg）は鳥居智男4段（25Ⅱそごう）が昨年71kgで優勝した南條充寿4段（26Ⅱダイコロ）を破って、この日唯一の連勝者となった。60kg級の松本秀彦3段（26Ⅱセコム）は十字固めで劇的な逆転。73kg級（旧71kg）も新田雅史4段（25Ⅱ京葉ガス）が大外返し一本勝ち。81kg級（旧78kg）は大山利幸3段（24Ⅱ京葉ガス）が2-1旗判定勝ちとそれぞれ初優勝。また、22歳未満の部は坂田博光2段（22Ⅱ旭化成）が年齢制限ぎりぎり

で優勝に間に合った。女子はアトランタオリンピック52kg級銅メダルの榎崎（旧姓菅原）教子2段（25Ⅱダイコロ）が第25回大会の56kg級（現57kg級）に続いて2度目を制した。48kg級は長井淳子2段（24Ⅱコマツ）、57kg級は茂木仙子2段（19Ⅱ住友海上）がそれぞれ初優勝した。

最終日は男子100kg超級（旧95kg超）が新旧の対決となり、ベテラン下出善紀5段（28Ⅱ旭化成）が永井亮平3段（21Ⅱ新日鐵広畑）から技ありを奪い、第24回大会以来4年ぶり2度目の凱歌を挙げた。100kg級（旧95kg）も宗真一郎3段（26Ⅱ九州電力）が第26回大会に続き2年ぶり2度目、90kg級（旧86kg）は繁昌久哲4段（23Ⅱ旭化成）が昨年の95kg級と合わせ、2階級制覇。

女子78kg級（旧72kg）の国吉真子3段（24Ⅱコマツ）は26～27回大会の72kg超級（現78kg超級）に続いて3連勝した。70kg級（旧66kg）の上野雅恵2段（19Ⅱ住友海上）もV2を飾った。78kg超級の鈴木香苗2段（23Ⅱミキハウス）と63kg級（旧61kg）の赤野仁美2段（24Ⅱセコム）は、それぞれ初優勝した。



選手宣誓をする上水選手（総合警備保障）



開会式（尼崎市記念公園総合体育館）

男子100kg超級 “下出ベテランの味”

永井が両襟を持って左技で挑戦。171cm、130kgが188cm、135kg下出に、おそらく初の対戦である。下出は高さを利して奥襟を取り、右内股を再三放つが、いずれも決まらない。1分50秒、永井が左で小外刈りを仕掛けると、下出は右足を上げて、すかしざまに小外刈りで永井を倒し、自らも崩れたが「技有り」となった。この技に関しては報道席でも燕返しではないかという見方も聞かれたが、ここでは「小外返し」と見解をまとめた。下出は3分ごろにもタイミング良い出足払いで永井を倒し「効果」を追加した。下出の順当勝ちである。

光ったのは永井。昨年の22歳未満で優勝して新人登竜門を駆け上がったばかりでノード。優勝候補の養父に2-1、上水には技の掛け数で遅れを取りながら最後に腹ばいにさせて3-0と旗がそろった。三賞があるなら殊勲・敢闘を両手に花と言った賛辞を送りたい。



旭化成

優勝した下出選手 (旭化成)

これから楽しみな永井君

下出の話 養父君と上水君がコケた。それ見て、これは勝つしかないなと思った。永井君、これから楽しみだ。腰の柔らかみを感じた。バランスが良く、足腰しっかりしているので今日は内股で攻めたが、有効も取れなかった。もともと7月初めに右肩を痛め、今日も右肩を広げると痛くて、得意の内股も4回戦の吉田君（近畿通関）だけ。あとは返し技。

【成績】

- 優勝 下出善紀(旭化成)
- 準優勝 永井亮平(新日鐵広畑)
- 第3位 上水研一郎(総合警備保障)
- 第3位 大漣賢司(日本中央競馬会)

▽準々決勝

- 上水 優勢勝ち 佐々木
- 永井 優勢勝ち 養父
- 大漣 優勢勝ち 池田
- 下出 袈裟固 出口

▽準決勝

- 永井 優勢勝ち 上水
- 下出 袈裟固 大漣

▽決勝

- 下出 優勢勝ち 永井

男子100kg級 “長身・宗が内股一本”

身長190cmは100kg超級に3人いるが、このクラスでは宗ひとりが抜きん出ている。決勝の古田は178cmだった。宗は右組みからの内股、古田は左体落として火ぶたを切る。40秒後、コーナーで宗の内股が「有効」となるが、右奥襟を取り右変型の宗に古田は反撃の糸口をつかめない。1分45秒ころ、両者「指導」を与えられたが、その直後の1分55秒、宗の右内股が見事な「一本」を決めた。

準決勝の宗-小齋戦2-1の僅差で宗に揚がった旗を見て小齋は一瞬不満の表情となった。



優勝した宗選手 (九州電力)

2年ぶり縁起の良い会場

宗の話 投げるのは精いっぱいだった。投げた間合いが良かったと思う。引き手を引いて投げたから……。この相手には学生時代一度勝っている。準決勝の小齋とは1勝1敗、大谷(福岡大)の2年後輩なので、やりづらい。去年は4回戦で秋山(JRA)に一本負けで納得いかなかったが、一昨年は湊谷(新日鐵)を大外刈りで投げて優勝したから自分にとって縁起の良い会場でもある。これからは講道館杯で勝って国際大会で名を挙げたい。九州実業団でも旭化成に勝つぞ！

【成績】

- 優勝 宗 真一郎(九州電力)
- 準優勝 古田昌直(セコム)
- 第3位 小齋武志(日本道路公団)
- 第3位 橋本 勲(東レ・滋賀)

▽準々決勝(5回戦)

- 宗 優勢勝ち 野崎
- 小齋 背負投 横川
- 古田 優勢勝ち 坂本
- 橋本 優勢勝ち 小川

▽準決勝

- 宗 優勢勝ち 小齋
- 古田 肩固 橋本

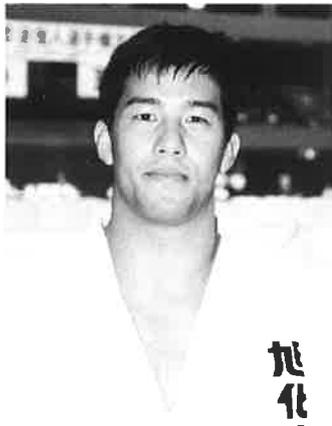
▽決勝

- 宗 内股 古田

男子90kg級 〃間断なき攻撃の繁昌〃

前年はノーシードで決勝に上がり、一昨年、昨年と2位だった湊谷に左一本背負い「技有り」を決め初優勝。今回は第1シードとなり、その勢いを保持している繁昌だ。決勝は大原に対し、左引き手を素早く取つての右内股や、組みぎわの左一本背負いで攻勢に立った。しかし2分ころ、やや強引な大外刈りを大原が返して「効果」を先取。これですます繁昌に火が付き、激しい連続攻撃を受けて大原は技が出せず「指導」となり、ポイント相殺。

その後も繁昌の大外刈り、払い腰、捨て身小内の攻撃が展開される。大原は繁昌の崩れに乘じ、寝技で応戦するが実らず、旗判定は繁昌に赤3本。



旭化成

優勝した繁昌選手
(旭化成)

相手は2年先輩なので

繁昌の話 今回は不安の要素の方が多かった。4月末、全日本選手権大会の次の日から強化合宿に入り、左ひざを痛めて2カ月も練習しなかった。大原さんは大学の2年上なので校内選考などでは、よく当たった。しかし、公式戦では初めて。かえって先輩相手だから気楽にガンガンいけた。

今後は体落としを少し変えること、足技をつなげていく。

【成績】

- 優勝 繁昌久哲(旭化成)
- 準優勝 大原尚喜(東洋水産)
- 第3位 三宮功一(日本道路公団)
- 第3位 中嶋康博(日本道路公団)

▽準々決勝

- 繁昌 優勢勝ち 池端
- 三宮 優勢勝ち 草刈
- 大原 優勢勝ち 深川
- 中嶋 優勢勝ち 近藤

▽準決勝

- 繁昌 合わせ技 三宮
- 大原 指導 中嶋

▽決勝

- 繁昌 優勢勝ち 大原

男子81kg級 〃両者警告から大山に旗〃

28歳の加美5段に対し、24歳の大山3段。組み手争いが続き、42秒経過で両者「指導」が付き、なお互いに引き手を取らせず1分45秒経過で両者「注意」となった。技は出ないものの若い大山がやや押し気味と見られた。

しかし、3分13秒ついに両者「警告」に追い込まれる。背水の陣とは、このことか。国際試合なら両者、または一方が「反則負け」になってもおかしくない状況。時間がないので勝ちを急がなければならぬ。大山タツクル(双手刈り)に勝機をつかもうと二度飛び込むが果たせず。依然、組み手争いのうちに終了のブザーを迎えた。旗判定は主審、副審の赤2本が大山に上がって僅差辛勝。このクラスは動きも激しく、接戦の試合が目立った。



優勝した大山選手
(京葉ガス)

前に出ることだけ考えた

大山の話 加美さんとは初めての対戦。でも練習では何度もやっているので、どちらかと言えば互いに知り尽くしている、やりにくかった。最後の双手刈りは、やはり勝ちたかった。なので、とにかく前へ出た。自分は寝技中心なので、どの試合も、寝技に誘いたかった。この大会は出場2度目、前回は78kg級の4回戦で土屋さんに、背負い投げで技を取り返されて負けた。今年は明大、道路公団、母校の武大に通って練習したが、1つ上の矢野さんが73kg級で活躍しているので自分も頑張りたい。

【成績】

- 優勝 大山利幸(京葉ガス)
- 準優勝 加美富章(合同産業)
- 第3位 山崎悦宏(ツクバ計画)
- 第3位 林 弘典(ツクバ計画)

▽準々決勝

- 山崎 優勢勝ち 上釜
- 大山 袈裟固 中村
- 林 横四方固 中田
- 加美 内股 国原

▽準決勝

- 大山 優勢勝ち 山崎
- 加美 優勢勝ち 林

▽決勝

- 大山 優勢勝ち 加美

男子73kg級 新田、大外返し一本

準々決勝で土屋、矢野と両極のシード選手が脱落した。代わって第3シード新田、第4シード吉岡が決勝へ躍り出た。初戦は立花(ツクバ計画)を大腰の「技有り」に討ち取った吉岡。寝ても自信があるだけに巴投げ、内股、背負い投げと積極的技を繰り出す。新田も初戦から肩車「一本」背負い投げ「技有り」などで勝ち進んで来た。双方積極的に大外刈り、手内股(すくい投げ)と激しい攻防に終始するも決まらない。残り20秒、思い切って大外刈りで勝負に出たのは吉岡だった。これを新田が回り込みながら返すと、まことにタイミング良い「一本」となった。初段(吉岡)と4段の段位差を感じさせない好勝負であった。

バルセロナオリンピック65kg7位の丸山顕志5段(33歳)丸山スペシャル)が5年ぶりカムバックしたが、4回戦で向井(自休校)に2-1の惜敗。



優勝した新田選手
(京葉ガス)

減量3kgで、かつぎ技を出せた

新田の話 吉岡君とは講道館杯で一度対戦し、「効果」で勝ったことがある。今日は遅れをとらないように先に先にと攻めた。減量が71kg級時代の5〜6kgに比べると今は3kgなので、かつぎにはちよつど良い。前は減量疲れで、かつぎ技が出せなかった。73kg級に変わって条件がそろった。

社内でも後輩の大山君(81kg優勝)が良い刺激を与えてくれている。

【成績】

- 優勝 新田雅史(京葉ガス)
- 準優勝 吉岡正人(新日鐵広畑)
- 第3位 向井孝之(自衛隊体育学校)
- 第3位 矢野智彦(東芝本社)

▽準々決勝

- 向井 優勢勝ち 土屋
- 吉岡 横四方固 橋本
- 新田 優勢勝ち 牧瀬
- 矢野 優勢勝ち 白石

▽準決勝

- 吉岡 優勢勝ち 向井
- 新田 優勢勝ち 矢野

▽決勝

- 新田 大外返し 吉岡

男子66kg級 鳥居猛攻撃「警告」勝ち

前年65kgを制した鳥居と、同じく71kg王者から体重を下げた南條の対決。互いに組み手争いが目立ち、「指導」「注意」を受ける。

このあと鳥居が右背負い、釣り込み腰を繰り出し、南條も右で相手の袖口を持つての大外刈りで応酬し合った。寝技得意の南條にチャンス訪れず、後半は鳥居の巴投げ、背負い、大外刈り連発に南條思わず守勢となって「警告」を取られた。71kgから下げた分だけ南條はコンディション不調となったか?



優勝した鳥居選手
(そごう)

精神的に落ち着けた

鳥居の話 去年は上組(昨年末廃部)だったが、今春、母校の大学院をやつと修了し、そごうに正社員として採用された。精神的に落ち着いたことも勝因かな。これから講道館杯を目指す。今まで最高は2位だった。

【成績】

- 優勝 鳥居智男(そごう)
- 準優勝 南條充寿(ダイコロ)
- 第3位 大石公平(ダイコロ)
- 第3位 石川正樹(東芝本社)

▽準々決勝

- 鳥居 優勢勝ち 中村
- 大石 送足払 飛田
- 南條 背負投げ 手塚
- 石川 優勢勝ち 大崎

▽準決勝

- 鳥居 背負投げ 大石
- 南條 優勢勝ち 石川

▽決勝

- 鳥居 警告 南條

男子60kg級 松本、十字固め逆転勝ち

前年3位でシードの松本に対し、ノーシード吉岡。最軽量級にふさわしく組むなり互いに激しい動きを展開。松本の内股は決まらず、松本右、吉岡左のいわゆるけんか四つで、互いに引き手を取れないままの攻防が続いた。機を見て飛び込んだ吉岡、あびせ気味の小内刈りが決まって「効果」のポイント。残り1分を切って松本、横落としのような感じで吉岡を崩し、背後から寝技で攻める。雷が鳴っても絶対放さないという食いつきかたで、粘り強く攻め、最後はピタリと十字固め。吉岡たまたらずで畳を打って「参り」の合図。残り10秒の逆転ドラマ。



優勝した松本選手 (セコム)

次は講道館杯優勝を

松本の話 とにかくうれしい。練習は母校や警視庁へ行ったり好きなようにできた。

次は講道館杯で優勝したい(過去3位)。良い試合ができれば、それでいいと思っている。

【成績】

- 優勝 松本秀彦(セコム)
- 準優勝 吉岡博之(自衛隊体育学校)
- 第3位 漆畑 健(東芝本社)
- 第3位 上野博史(セコム)

▽準々決勝

- 漆畑 払い腰 田口
- 松本 優勢勝ち 松田
- 上野 優勢勝ち 藤川
- 吉岡 背負投げ 斉藤

▽準決勝

- 松本 優勢勝ち 漆畑
- 吉岡 優勢勝ち 上野

▽決勝

- 松本 十字固 吉岡

男子22歳未満 相手 掛け逃げで坂田

坂田は176cm、110kg(八代工高) 対する大石は167cm、88kg(龍谷高)と体格的には大石が小さい。両者、組みぎわに足技を出し合い、組み手争いが続いた。1分経過後、互いに内股を掛け合い、場外線へ移動しても変わらず。主審そろそろ消極性へのペナルティーを出したいところ。大石、突然相手ふところへ入って一本背負いを見せたが、すっぽ抜けて座る。主審これを「掛け逃げ」と判定して「指導」を与え、互角の戦いに「けり」を付けた。両手が離れたのは失敗、片方でもつかんでいれば安全圏だったという指摘。



優勝した坂田選手 (旭化成)

監督の言葉を信じた

坂田の話 今年は年齢的にラストなので気合を入れた。監督から「勝ちたい気持ちある方が勝つ。自分の力を出せば優勝できる」と励まされ、その言葉を信じた。

大石君とは高校生のとき一度、母校道場落成式の招待試合で有効勝ちしている。

【成績】

- 優勝 坂田博光(旭化成)
- 準優勝 大石栄治(ダイコロ)
- 第3位 内田拓造(王子製紙)
- 第3位 秋葉洋一(自衛隊体育学校)

▽準々決勝

- 坂田 優勢勝ち 郷
- 内田 裏投 新盛
- 大石 優勢勝ち 倉石
- 秋葉 大内刈 岩崎

▽準決勝

- 坂田 優勢勝ち 内田
- 大石 背負投げ 秋葉

▽決勝

- 坂田 優勢勝ち 大石

女子78kg超級 // 鈴木香苗が悲願 //

決勝は、前年2位の鈴木と同3位の柳花の対決。開始29秒で両者「指導」のあと、柳花が掛けた技をゴロリとつぶして鈴木が抑え込み、1分08秒の勝利。

妹尾、山本と大型新社会人が入り期待されたが、2人共準決勝で敗退した。



優勝した鈴木選手
(ミキハウス)

しんどかったけど頑張る

鈴木の話 この相手とは高校1短大(湊川女子短大)がいつしよなので、かなりやっていた。(前年は準決勝で場外に出ている鈴木を柳花が上四方固めに入ったが、足が場内から離れて逆転劇ならず)ミキハウスの皆も頑張ったけど、少し疲れてたみたい。私も腰とか、ひざとかが痛くしんどかった。でも秋の全国女子体重別選手権大会(11月15日、日本武道館)も頑張る決意。

【成績】

- 優勝 鈴木香苗(ミキハウス)
- 準優勝 柳花美鈴(ダイコロ)
- 第3位 山本 恵(大阪府警)
- 第3位 妹尾ひでみ(ミキハウス)

▽1回戦

- 鈴木 払い腰 中山 (ミキハウス) (そこう)
- 山本 大外刈 柴田 (大阪府警) (三菱自動車)
- 柳花 縦四方固 岩佐 (ダイコロ) (三菱自動車)
- 妹尾 小外刈 工藤 (ミキハウス) (西興産業)

▽準決勝

- 鈴木 払い腰 山本
- 柳花 優勢勝ち 妹尾

▽決勝

- 鈴木 上四方固 柳花

女子78kg級 // 国吉、後輩に楽勝 //

体重を1つ下げた国吉に対する佐藤も柳川高における2年後輩だ。上背は国吉が14cmも高い。双方左組みながら国吉が上からがちつと引き付ける。苦しまぎれもあって佐藤、場外で大内を仕掛けると、待っていた国吉に返されて「効果」(35秒)その後も同じ展開で「有効」(1分50秒)「技有り」(2分55秒)をとり、最後は三角から袈裟固めに入り、合わせて一本。佐藤は同じパターンで失敗、大内と見せて小内とかの手もあつたらう。



優勝した国吉選手
(コマツ)

やっと練習できた状況

国吉の話 先々週から微熱が続き、じんましんまで。やっと今週から練習できた状況なので自然減量。ひとつひとつ慎重に戦った。(笑)ふたつしか試合してない)

【成績】

- 優勝 国吉真子(コマツ)
- 準優勝 佐藤和恵(ダイコロ)

▽1回戦

- 山下 優勢勝ち 谷口 (そこう) (大阪府警)
- 佐藤 横四方固 時津 (ダイコロ) (綾羽)
- 大久保 優勢勝ち 上野 (住友海上) (肥後銀行)

▽準決勝

- 国吉 内股 山下 (コマツ)
- 佐藤 優勢勝ち 大久保

▽決勝

- 国吉 合せ技 佐藤

女子70kg級 “住友同士は上野”

決勝は、同一職場の貝山と1期下の上野。大相撲では同門対決と呼ばれる。かつぎ屋の上野が1分35秒、右一本背負いで「有効」を先取りし、2分15秒には左大外刈り「有効」2分45秒左大内刈り「有効」と猛攻を続けた。終了直前には縦四方固めに入ったが、さすがに貝山、先輩の意地を発揮して絶体絶命の状況から返して「解けた」(13秒)は一服の清涼剤か。範とすべし。

【成績】

- 優勝 上野雅恵(住友海上)
- 準優勝 貝山仁美(住友海上)
- 第3位 小取美輪(コマツ)
- 第3位 石橋千里(総合警備保障)

▽1回戦

- 高橋 不戦勝 海老名(セコム)
- 貝山 優勢勝ち 山口(住友海上)
- 佐々 優勢勝ち 吉野(肥後銀行)
- 石橋 袈裟固 阿茶(総合警備保障)

▽準々決勝

- 小取 大内刈り 高橋(コマツ)
- 貝山 優勢勝ち 藤本(タイコロ)
- 上野 横四方固 佐々(住友海上)
- 石橋 不戦勝 花増(ミキハウス)

▽準決勝

- 貝山 優勢勝ち 小取
- 上野 優勢勝ち 石橋
- ▽決勝
- 上野 優勢勝ち 貝山



優勝した上野選手(住友海上)

金融大会以来

上野の話 貝山先輩とは2度目の試合。去年、講道館で金融大会があつて、そのとき「有効」で勝った。今回は連覇を目指して頑張った。最後まで緊張せずにリラックスして戦えたのが勝因。明日も練習があり、一生懸命やらな

女子63kg級 “波乱の中、赤野が初V”

最大激戦区は波乱続出。中市、小笠原、南といったミキハウスの優勝候補が初戦で枕を並べ討ち死には意外だった。シードで上位に駒を進めたのは、わずかに角地ひとり。その間隙を突いてAプールから赤野、Bプールから酒向が出てきた。両者組み手争いが多い中で、赤野、低い姿勢からの背負い投げ数回はポイントに結びつかない。3分20秒ころ、互いにしつこい攻防のうち、赤野の体を預けるような大内刈りが「有効」となる。酒向の猛反攻にやや防御に回って赤野「指導」はベル2秒前。

【成績】

- 優勝 赤野仁美(セコム)
- 準優勝 酒向綾乃(大阪府警)
- 第3位 角地泰子(住友海上)
- 第3位 赤岡志保(ミキハウス)

▽2回戦

- 佐藤 優勢勝ち 中市(警視庁)
- 赤野 袖釣込腰 山田(セコム)
- 山口 注意 小笠原(コマツ)
- 角地 優勢勝ち 白石(住友海上)
- 酒向 優勢勝ち 南(大阪府警)
- 古川 注意 長岡(住友海上)
- 赤岡 優勢勝ち 二宮(ミキハウス)
- 大石 合わせ技 安達(セコム)

▽準々決勝

- 赤野 優勢勝ち 佐藤
- 角地 優勢勝ち 山口
- 酒向 横四方固 古川
- 赤岡 優勢勝ち 大石

▽準決勝

- 赤野 優勢勝ち 角地
- 酒向 優勢勝ち 赤岡
- ▽決勝
- 赤野 優勢勝ち 酒向



優勝した赤野選手(セコム)

大内刈りは吉岡先生に

赤野の話 私は、兵庫の夙川出身。あの内刈りは夙川高校時代に吉岡行正先生(今大会審判員)から教わったもの。先生にご挨拶に行く。昨年はこの大会に出場できなかったのですが、今年はずいぶん勝ちたいと思っていた。

女子57kg級 『前年2位 茂木が浮上』

住友海上応援席と隣のコマツ応援席で、試合と同じくらい大熱演、大声援。住友の茂木、初めから積極果敢に攻めて大内刈り、内股と元気でまさる。何しろ、この日、松井を内股、武田に3-0、植田(庸)に「指導」と、それぞれ大学時代に名のある相手を倒してきただけに絶好調だ。3歳年上の井上は故障回復から徐々に本来の力を発揮しつつあるが、なお慎重に機をうかがう。1分過ぎ、井上の技を外掛け「有効」で返して茂木が寝技に持ち込み、横四方固めに決めた。

- 【成績】
- 優勝 茂木仙子(住友海上)
 - 準優勝 井上くみ子(コマツ)
 - 第3位 有櫛志保(コマツ)
 - 第3位 植田庸子(ダイコロ)

▽一回戦

- 井上 内股 (西江(日本生命))
- 有櫛 背負投げ (東城(大阪府警))
- 植田 袈裟固 (山本(三菱自動車))
- 武田 内股 (山野(セコム))
- 茂木 内股 (松井(セコム))

▽準々決勝

- 井上 不戦勝 (上田尾(住友海上))
- 有櫛 足払い (南田(肥後銀行))
- 植田 優勢勝ち (城島(警視庁))
- 茂木 優勢勝ち (武田)

▽準決勝

- 井上 注意 (有櫛)
- 茂木 注意 (植田)

▽決勝

- 茂木 横四方固 (井上)



優勝した茂木選手 (住友海上)

早めの仕掛けが功を奏する

茂木の話 全国の大会で初めて優勝できた。右足に故障があるので、決勝は早め早めに仕掛けた。
柳澤監督からは「とにかく自分の柔道やれば勝てる」と教わっている。

女子52kg級 『アトランタ銅の榎崎』

吉田ー榎崎(旧姓菅原) 昨年3月に結婚は順当の顔合わせ。前半互いに攻め合ったが、試合半ば、榎崎の左内股が「効果」となった。その後、吉田の巴投げをつぶして寝技に入った。こうなれば榎崎のお家芸といった感じで、ピタピタッと決めて横四方固め一本勝ちは、アトランタの再現を思わせた。個人戦は1年3カ月ぶりの出場となった。

- 【成績】
- 優勝 榎崎教子(ダイコロ)
 - 準優勝 吉田清美(ミキハウス)
 - 第3位 木山奈央子(大阪府警)
 - 第3位 金子さなえ(住友海上)

▽一回戦

- 田中 横四方固 (本田(好)(日本生命))
- 内田 払い腰 (浄法寺(セコム))
- 木山 指導 (本田(美)(肥後銀行))
- 金子 十字固 (瀬尾(ミキハウス))

▽準々決勝

- 榎崎 内股 (堀(宝実業))
- 黒川 背負投げ (笠崎(セコム))
- 吉田 合わせ技 (田中)
- 木山 縦四方固 (内田)
- 金子 優勢勝ち (秋山)
- 榎崎 横四方固 (黒川(総合警備保障))

▽準決勝

- 吉田 優勢勝ち (木山)
- 榎崎 横四方固 (金子)

▽決勝

- 榎崎 横四方固 (吉田)



優勝した榎崎選手 (ダイコロ)

目標は2年後シドニー

榎崎の話 試合では冷静に見えても私は結構緊張している。でも精神的には安定しているかな。減量も少なく体調も良かった。合宿の疲れが少し残っていたが、かえって慎重にやれたので、それもよかったと思う。11月の全国女子体重別選手権大会で勝ちたい。日本代表にならなないと世界の舞台に挑戦できないし。目標は2年後のシドニー。

女子48kg級 “巧者長井が逃げ切る”

長井は実業団デビュー戦だろう。酒巻との決勝は互いにけん制し合って両者「指導」となる。残り2分30秒、長井は本領を発揮、小内刈りを連続で仕掛けて「有効」となる。酒巻も「効果」で応戦、さらに長井の奥襟を取って、一気ばん回を図るも、長井は下から手を伸ばして酒巻の足を狙う。片方の背のゼッケンが取れてしまったほどのつかみ合いだ。酒巻が接近戦をいどみ、背負い投げを仕掛けたところでブザー。山崎立実主審「それまで」の声ひびく。

【成績】

優勝 長井淳子(コマツ)

準優勝 酒巻なお(ミキハウス)

第3位 岡野舞実(宝実業)

第3位 鈴木雅子(コマツ)

▽1回戦

○鈴木 袈裟固 鳴川
(コマツ) (肥後銀行)

▽準々決勝

○酒巻 不戦勝 三浦
(ミキハウス) (コマツ)

○岡野 内股 松本
(宝実業) (住友海上)

○鈴木 不戦勝 衛藤
(コマツ) (ミキハウス)

○長井 大内刈 牧野
(コマツ) (綾羽)

▽準決勝

○酒巻 崩袈裟固 岡野

○長井 小外掛 鈴木

▽決勝

○長井 優勢勝ち 酒巻

ウエイトトレーニングで

長井の話 社会人になって初めての優勝。春先、首にちよっとけがをして練習が不足した分、トレーナーの指導でウエイトトレーニングをしっかりしてきた。次は11月の全国女子体重別選手権大会が目標。



優勝した長井選手(コマツ)



男子73kg級決勝 新田、吉岡の大外刈りを返し一本



女子52kg級決勝 榑崎、吉田を内股で攻める



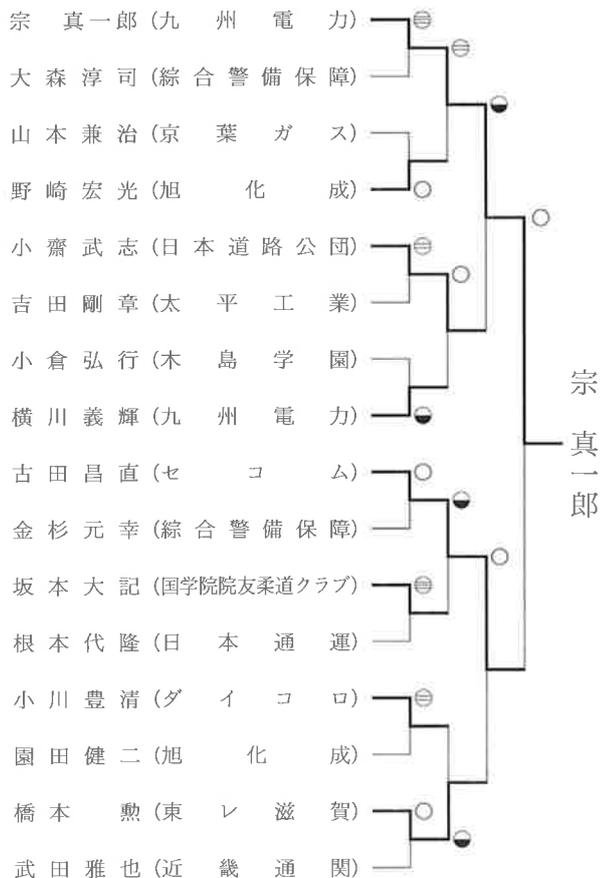
女子70kg級決勝 上野、貝山の同社対決



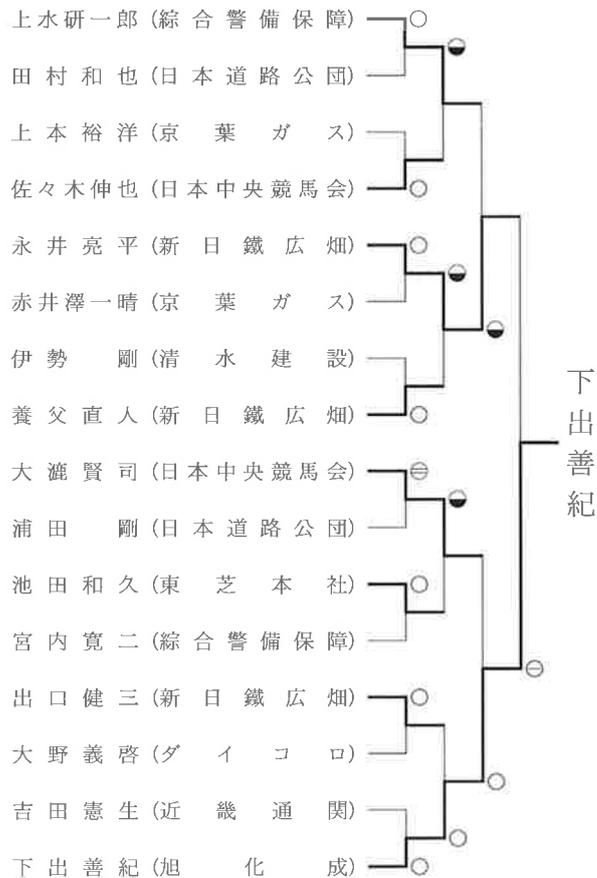
男子90kg級決勝 繁昌、内股で大原を攻める

熱戦風景

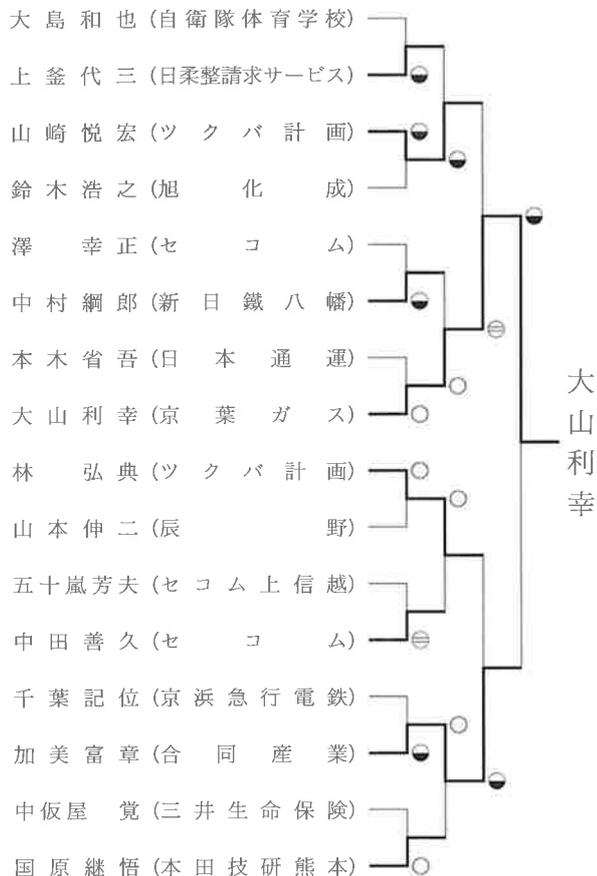
【男子100kg級】



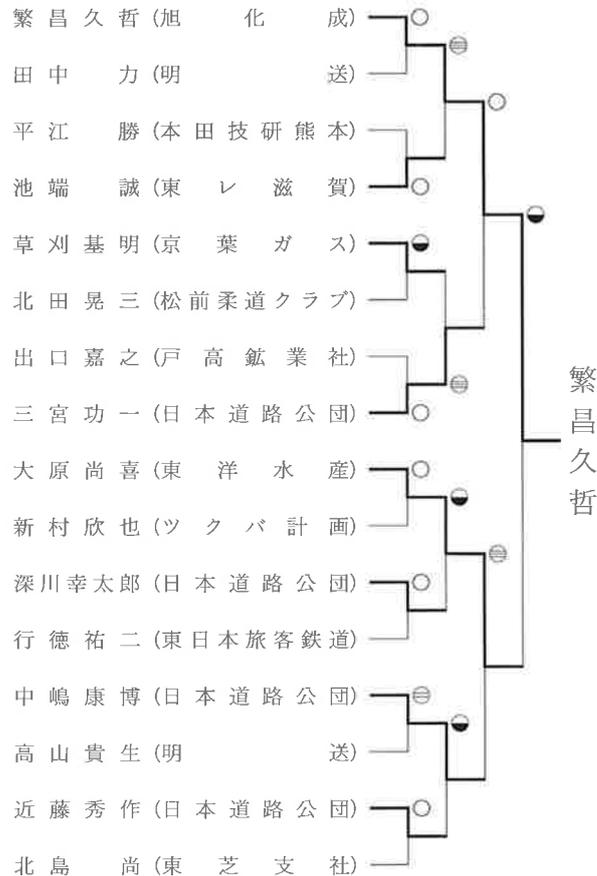
【男子100kg超級】



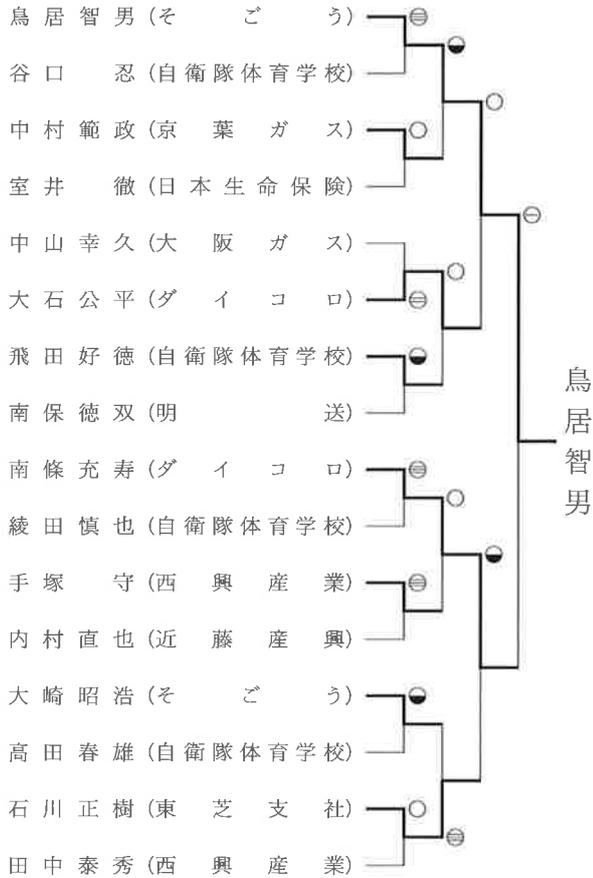
【男子81kg級】



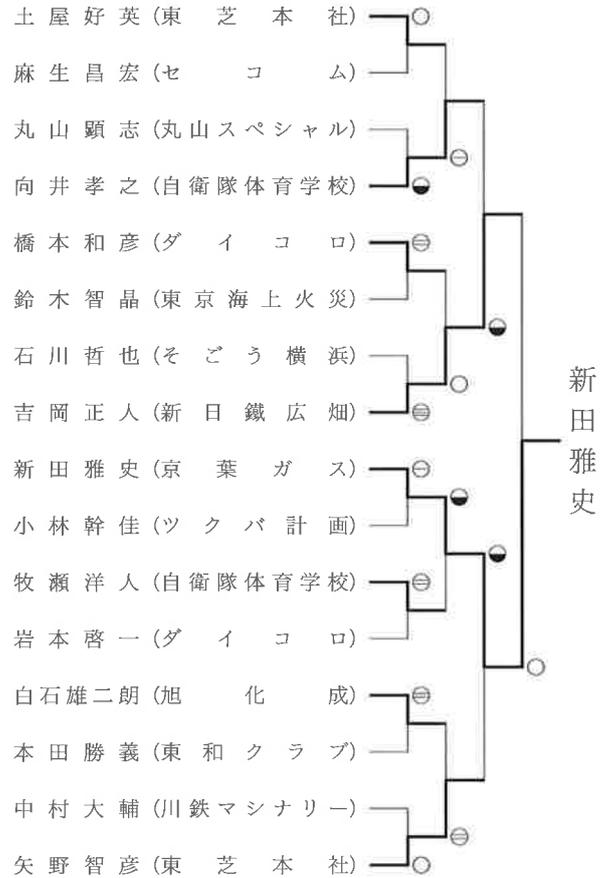
【男子90kg級】



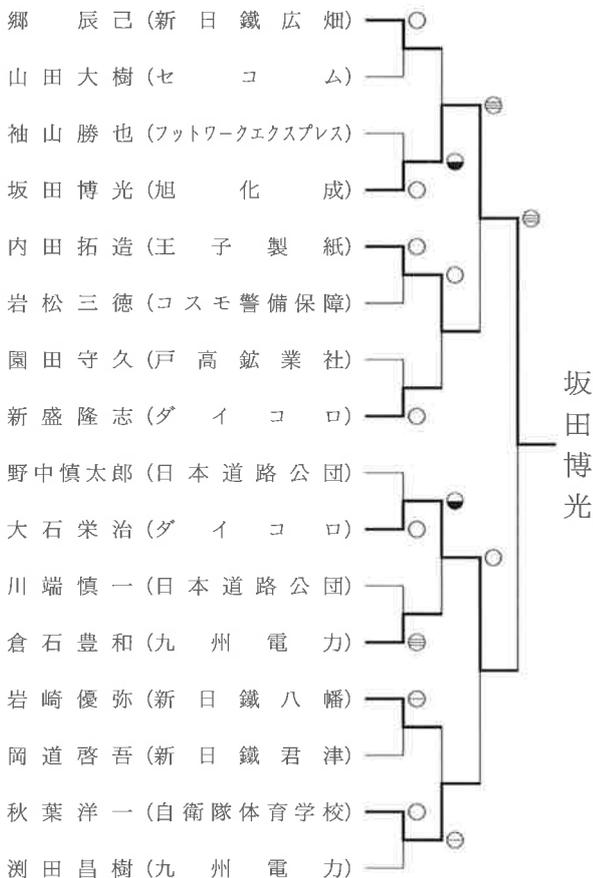
【男子66kg級】



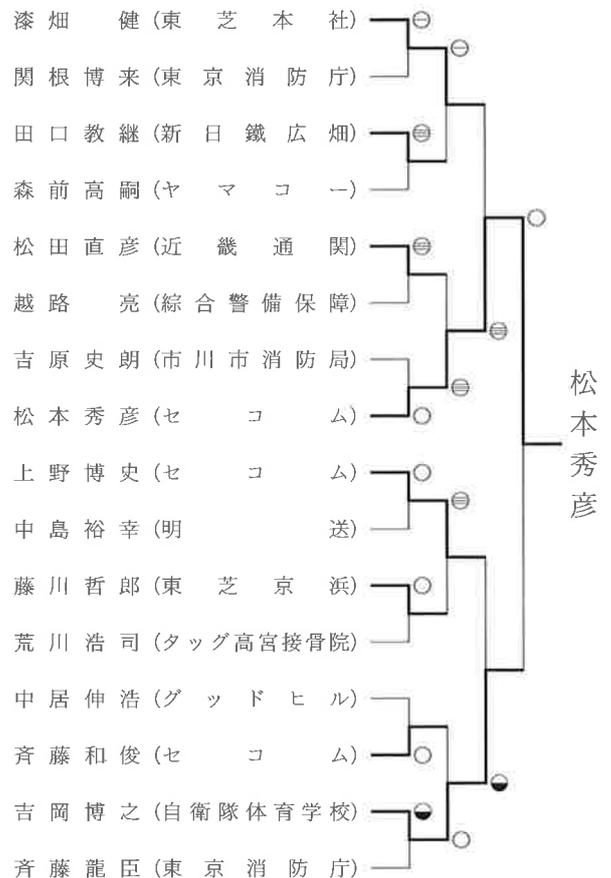
【男子73kg級】



【男子22歳未満】



【男子60kg級】



小野沢講師招いて第2回審判講習会

第2回全日本実業柔道連盟「審判講習会」が8月28日14時から、大阪市北区天満のダイコロ株式会社7階会議室において、前回の神戸市に引き続き(株)大崎企業スポーツ事業研究助成財団の支援により開催された。

今回は、小野沢弘史・全柔連審判副委員長を招き、昨年10月パリ世界選手権大会審判員の経験をもとに、国際柔道連盟試合審判規定の最新版の解釈について逐条的に説明がなされた。

たとえば、主審のジェスチャーの明確化(技の判定に対するジェスチャーについては、3〜5秒間体を回して副審や関係者にはつきりわかるように持続させること。また、もつれた状態で倒れた場合、どちらの得点であるか示す必要があるなど)、副審の役割の重要性など。

約60名の受講者(全日本実業柔道個人選手権大会審判員



講習会風景



小野沢講師

上村講師による実技指導



実技指導を熱心に見入る受講者

と西日本地区加盟企業の監督・コーチなどは、熱心にメモを取り、活発に質問し、フロアの特設ビニールマットでは講師が実技者に指示して納得いくまで解説していた。

また、山本裕洋・全実柔連競技・審判委員長が全日本実業柔道団体対抗大会の反省点を、上村春樹・全柔連強化副委員長が強化の立場から、国際大会と同じ対応(ポイントを取っている側の掛け逃げは必ず指導を取ること)を強く求めるなど熱気にあふれ実りある3時間であった。

1998年ワールドカップ代表選手

	階級	氏名	所属		階級	氏名	所属
男	100kg超級	原 信一 案村 元辰	旭化成工業(株) 天理大学4年	女	78kg超級	二宮 美穂 山下 まゆみ	コマツ 大阪府警
	100kg級	小窪 齋武 田 邊村	日本道路公団 旭化成工業(株)		78kg級	福場 由里子	住友海上火災保険(株)
	90kg級	田中 勝央 中 佳	旭化成工業(株) 旭化成工業(株)		70kg級	吉田 早希	(株)ミキハウス
	81kg級	窪鉄 田谷 和竜 則三	警視庁 警視庁		63kg級	一見 理沙	筑波大学2年
子	73kg級	中岩 兼三 村川 武久	旭化成工業(株) (株)上組	子	57kg級	立野 千代里 大塚 雅子	(株)ミキハウス 東海大学4年
	66kg級	中園 村行 園田 隆成	旭化成工業(株) 警視庁		52kg級	永井 和恵 大森 千賀	ダイコロ(株) (株)ミキハウス
	60kg級	徳野 和彦 村 忠宏	神奈川県警察 奈良教育大学大学院		48kg級	田村 亮子	トヨタ自動車(株)

発行日 1998年9月20日
 発行人 全日本実業柔道連盟
 取材協力 ジャーナリスト 岩田久和
 印刷 ダイコロ株式会社 宮澤正幸